

聖心女子大学
2026年度 一般選抜総合小論文方式 小論文
解答と講評

一般選抜総合小論文方式 2月期

【解答】

問 1. (a)○ (b)× (c)○ (d)○ (e)×

問 2.

1. 和訳

※ 著作物の使用部分については、著作権の関係により掲載できません

2. 和訳

※ 著作物の使用部分については、著作権の関係により掲載できません

3. ア c イ a ウ e エ d オ b

4. (a)○ (b)○ (c)× (d)○ (e)×

問 3

1. (a)× (b)× (c)○ (d)○ (e)○

2. (解答例)

「ジェンダー平等のパラドックス」とは、経済的に豊かで「男女平等」が進んでいる国ほど、理系に進む女性の割合が少ないことを意味する。それは、経済的制約にしばられず、希望する分野に進みやすいためという解釈もある一方、理系は男性向けという思い込みは先進国でも存在するからという解釈もある。(140字)

問 4. 講評を参照

【講評】

科学とジェンダーというテーマで資料を選定し、とりわけ科学領域への女性の参画について考え、論じることを課した。

問1は【資料1】のデータの読み取りであり、日本の高校生の科学離れの現状を日米中韓4ヶ国の比較調査の結果であるグラフ（役に立つと思う科目、専攻したい分野、デジタル技術経験）から読み取れるかを測った。満点も多く概ねよくできていた。

問2および問3は科学におけるジェンダー差を論じた英文【資料2】と和文【資料3】であり、国内外の調査や研究結果を読み取れるかを測った。問2の和訳を課した箇所は、進路選択の男女差の背景にあるとされる価値観に言及した箇所であり、英語の構文を読み解くことができれば、問題の理解を深めることができると考えられる箇所である。下線部①の方が②よりも全体的によくできていた。下線部②の和訳では closely の意味が理解できていない答案が目立った。2. は単語の穴埋めであるが正答率はやや低かった。3. は英文に付されたグラフの読み取りであるが問1に比べると正答率は下がった。

問3は理系に進む女子が少ない理由に関する新聞記事を読み、この問題が日本だけでなく海外でも報告されていること、少なくとも小学生の頃から科学に対する意識や算数の能力に性差がみられるという報告があることなどを読み取れるかを測った。1. については満点も多く概ねよくできていた。2. は本文中に言及される「ジェンダー平等のパラドックス」という現象の説明に加えて、こうした現象の原因として述べられている以下の3つの解釈可能性のうち、2つ以上に言及していることを評価のポイントとした。

- ① 先進国では、経済的制約から理系を選ばなくても良い
- ② （理系は男性向けという）性別に関する思い込みは簡単には消えない
- ③ 女性のほうが言語能力が高いため、理系以外を選ぶことが多い

原因を2つのみ述べて、現象の説明がなされていない答案が多かったが、高得点の答案もあった。

問4は【資料1】～【資料3】の内容を踏まえた上で、科学の領域に女性がより多く参画するにはどうしたらよいか、考えをまとめさせた。論理的であること、資料への言及があること、ユニークなアイデアが示されていること、この3点に配慮しながら採点した。概ね平均的な出来栄であったが、上記の3点をクリアした高得点の答案も見られた。

一般選抜総合小論文方式3月期

【解答】

問1. (解答例)

筆者が考える「豊かさ」とは、短時間で多くの場所を巡る効率性ではなく、一つ一つの細部に立ち止まって時間をかけ、視点を変えて対象の新たな側面を発見し、再び全体を把握する「よく見るすべ」を知ることで、既知のものや身近な風景のなかに尽きない喜びを見いだすようなものの見方をすることである。(140字)

(もしくは)

筆者が考える「豊かさ」とは、短時間で多くの場所を巡る効率性ではなく、一つ一つの細部に立ち止まり時間をかけ、視点を変えて対象の新たな側面を発見することである。再び全体を把握する「よく見るすべ」を知ること、既知のものや身近な風景の中に尽きない喜びを見いだすようなものの見方ができる。(140字)

問2

1. (a)○ (b)× (c)× (d)× (e)×

2.

※ 著作物の使用部分については、著作権の関係により掲載できません

3.

※ 著作物の使用部分については、著作権の関係により掲載できません

4. ア (b) イ (e) ウ (c) エ (d) オ (a)

問3.

(a)○ (b)× (c)○ (d)○ (e)×

問4.

1. 抽象

2. デジタルテクノロジー

(デジタルテクノロジーの発達など、記述の内容が合っていれば正解とする)

3. (a) (e)

問5. 講評を参照

【講評】

近代社会においては科学技術の発達に伴い、情報量の多さと人間に与えられた時間とのバランスから、「時間がない」という問題が発生している。とくに ICT が共通インフラになった昨今、費やした時間あたりの成果、いわゆるタイムパフォーマンスに関する意識は高ま

っている。タイムパフォーマンスを改善することが優秀さの証であるという考えから、それが真の豊かさを失わせるという考えまで、人間という有機的存在を巡るこの問題の重要性は増している。若年層にとっても身近な問題であるため、受験者が自分に引き寄せて課題を考察し、自分の言葉で論述を展開し得る可能性が高いと考えた。執筆された小論文などを通じて、本学が教育目標とするリベラルアーツに関連する思考を確認できることを期待しつつ出題した。

問1は旅行を題材としたエッセイ【資料1】を読み、筆者のいう「豊かさ」についての理解を確認した。満点も多く概ねよくできていた。

問2は若者にとって身近なテーマである「動画視聴に関する心理学」を扱った英語の紹介記事【資料2】を題材としている。主な狙いは、単なる語学力の確認に留まらず、記事内の予想と結果を示すグラフから、その変化や相関関係を論理的に正しく分析できるかを問う点にある。日常的なトピックを通じて、英語の基礎能力と、データを客観的に読み解く論理的思考力を兼ね備えているかを総合的に評価するものである。下線部の和訳については①よりも②の方が全体的によくできていた。問2はよくできた人とそうではない人との間に差が出た結果となった。

問3は費やした時間に対する成果、いわゆる「タイムパフォーマンス」に関する年代別アンケートの調査結果【資料3】に基づき、提示されたグラフから情報を正確に把握・分析する能力を評価の主眼とした。正答率は高く概ねよくできていた。

問4は時間に関する哲学者のエッセイ【資料4】を題材とし、その文意を正確に読み取る力があるかを確認した。文章自体は短いものであったが、じっくり読む必要があった。満点も多かったが、問3と比べると差が開いた。

問5は【資料1】～【資料4】の内容を踏まえた上で、いわゆるタイムパフォーマンスについての考えをまとめさせた。論理的であること、資料への言及があること、ユニークなアイデアが示されていること、この3点に配慮しながら採点した。概ね平均的な出来栄であったが、上記の3点をクリアした高得点の答案も見られた。